

〔和漢三才圖會十二〕會厭

會厭在喉之間、爲音聲啓閉之戶、會厭小而疾薄、則發氣疾、其開闔利、會厭大而厚、則開闔難、其氣出遲矣、乃所以分水穀、司呼吸而不容其相混者也。

按凡笛有簧、嘯之分、呂律焉、喉管如笛、會厭猶簧、言而分四聲、如風寒冒肺管、則聲濁、或嘔或咳嗽矣。

〔三代實錄三十五〕元慶三年正月三日癸巳、僧正法印大和尚位眞雅卒。中於帝御前誦眞言三十七

尊梵號、音響微妙、如貫珠、聽者莫不絕倒、帝大悅之。

〔源平盛衰記五〕成親已下被召捕事。

西光法師ヲ召取テ、大庭ニ引居タリ、相國清盛ハ略中西光法師ヲ一時睨テ噴聲ニテ、下

〔吾妻鏡二〕治承五年元年養和閏三月廿五日辛未、足利又太郎忠綱略中是末代無雙勇士也、三事越人

也、所謂一其力對百人也、二其聲響十里也、其齒一寸也云云。

〔獨語〕人生れて赤子の時は啼きて聲を出だす、二三歳より聲を上げて呼吸す、四五歳より人をし

へざれども、いつとなく歌謠をまなびて、かた言なる童謠をとへ、しる、是皆自然なり、人と

しては聲を出だして澀鬱を宣ぶるわざなくて、はあらぬゆゑなり、されば人は何にても、少し

聲を立つるわざを、をりく、なさでかなはぬは天性なり、悦ぶこと悲むことに付けて、

それ下に聲を立つるは、やむことをえざるわざなり、賤者の力わざにても、聲を立て、はげむ

は常の習也。

〔撮壤集下〕病疾アツク噫アツク

〔禮記註疏二〕侍坐于君子、君子欠、伸、撰杖履、視日蚤、莫、侍坐者請出矣、註以君子有

〔書言字考節用集五〕屢アツク氣又云

〔榮花物語二十九〕飾九びはどの子〇妍〇の御心ちいとくるしげにおはします事いとゞしけれど、明尊僧

噫